

令和6年度 学校運営協議会評価書

1 自己評価全般について

『しあわせ』の学校をつくる」という学校教育目標を、教職員・児童・保護者・地域づくりのメンバーが自分ごととしてとらえ、地道で持続可能な教育活動をベースに、年度ごとに見直し、力点を絞ってきた成果が現れつつあると感じています。学校長の言う「自己有用感」の育成は、まさに日々の教育活動の蓄積です。その育成の姿勢こそが主体的・協働的に課題を解決する力を養い、児童の意欲の向上につながる重要な要素となっています。

本年度は、「蔵持小学校をどんな学校にしていきたいか」をテーマに、6年生児童と運営協議会委員がグループで協議する時間を設定しました。そこで出された子どもたちの声は、「今の学校の在り方に満足している」、「この姿を下級生につないでいきたい」、「このまま明るく楽しい学校で」など各グループ異口同音に肯定感・満足感を表すものでした。さらに、これまでの各学年で地域の皆さんと学んだ活動はすごく楽しかったこと、心に残っていることも報告されました。加えて地域や学校にお願いしたいこととして、「運動場を使いやすく（芝生にするなど）」、「図書室の充実」、「遊具の増設」などが出されました。これを受けて、6年生が在籍する間に少しでも実現できるよう、創立150周年の事業と連携して図書室に書架を設置することができ、ともに目に見える成果として感じ取ることができたと思います。

重点取組事項に関わって取組事項1については、授業がよくわかると感じている児童95.1%、丁寧に教えてくれていると感じている保護者89.9%、地域や社会をよくするために何かしたい89%、人の役に立つ人間になりたい95%など、非常に高いアンケート結果があり、目的意識をもって活動しようとする姿勢が育ってきていると感じます。

取組事項2については、相手のことを考えて仲良く生活している95.1%、先生は良いところを認めてくれる96.2%、またQ-U調査からも集団の満足度の向上が見られ、日々の先生方の姿が子ども達の自己有用感を蓄積させていることが現れています。

取組事項3については、運営協議会が学校・保護者・地域をつなぎ、ともに子どもを育てるという仕組みが整いつつあると感じます。教師も子どもも地域のメンバーも変わっていきますが、今後さらに子どもたちが学校をつくっていく主体者となっていけるよう、取組の継続を大切にしたいと考えます。



2 学校から提示された「課題」や来年度への方向性について

学校運営協議会の発足当初より「主体的に活動する子どもの姿」を求めて取り組みを重ね、こ

の4年ほどの間に、少しずつ主体的に活動する子どもの姿が見られるようになってきました。自己有用感の育成は、日々の地道な教育活動の蓄積で育まれるものであり、これをすればすぐ身に付くというものではありません。そういう点からも、今後も「学校・地域協働活動年間計画」を継続的に見直し、活動の充実を図りたいと考えます。

6年生児童の発案による「蔵持小150周年記念イベント」が計画され、地域の協力を仰ぎたいと蔵持地区まちづくり委員会に説明に出向く子どもの姿は、まさに学校を起点にした教育活動です。スクールコミュニティの芽が見え始めていると感じます。次年度は、様々な対象を考え熟議を設定していくことが継続と発展につながるように考えます。



3 その他

「チーム蔵小」として元気あふれる教職員集団は、元気あふれる子どもたちを育てることになると考えます。働き方改革と併せ様々な意識改革を進められることを期待します。